

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成24年3月1日(2012.3.1)

【公開番号】特開2011-42668(P2011-42668A)

【公開日】平成23年3月3日(2011.3.3)

【年通号数】公開・登録公報2011-009

【出願番号】特願2010-232760(P2010-232760)

【国際特許分類】

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 K 31/498 (2006.01)

A 6 1 K 31/4748 (2006.01)

A 6 1 P 27/06 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 31/498

A 6 1 K 31/4748

A 6 1 P 27/06

A 6 1 P 43/00 1 1 1

【手続補正書】

【提出日】平成24年1月11日(2012.1.11)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

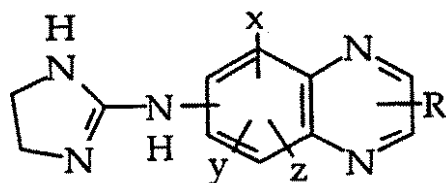
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

2 アドレナリン受容体作用薬の硝子体内投与により処置される眼障害を処置するための硝子体内投与用医薬組成物であって、式 I :

【化 1】



式 I

[ 式中、2-イミダゾリン-2-イルアミノ基はキノキサリン環骨格の5位又は6位のいずれにあってもよい。x、y及びzは残りの5位、6位、7位又は8位のいずれにあってもよく、水素、ハロゲン、C<sub>1-3</sub>アルキル、C<sub>1-3</sub>アルコキシ、又はトリフルオロメチルから選択する。Rはキノキサリン環骨格の2位又は3位にあってもよい任意の置換基を表わし、水素、C<sub>1-3</sub>アルキル又はC<sub>1-3</sub>アルコキシでありうる。]

で示される化合物および薬学的に許容し得るその塩ならびにそれらの混合物から成る群から選択される 2 アドレナリン受容体作用薬を含有する医薬組成物。

【請求項 2】

2 アドレナリン受容体作用薬がプリモニジンである請求項 1 に記載の医薬組成物。

## 【請求項 3】

<sub>2</sub> アドレナリン受容体作用薬を処置有効量で含有する請求項 1 に記載の医薬組成物。

## 【請求項 4】

眼障害を有するヒトに投与し、その眼障害を処置するための請求項 1 に記載の医薬組成物。

## 【請求項 5】

眼障害が網膜障害である請求項 1 に記載の医薬組成物。

## 【請求項 6】

網膜障害が、糖尿病性網膜症である請求項 5 に記載の医薬組成物。

## 【請求項 7】

<sub>2</sub> アドレナリン受容体作用薬を固体形態で硝子体内投与する請求項 1 に記載の医薬組成物。

## 【請求項 8】

<sub>2</sub> アドレナリン受容体作用薬を半固体形態で硝子体内投与する請求項 1 に記載の医薬組成物。

## 【請求項 9】

液体または固体投与形態の <sub>2</sub> アドレナリン受容体作用薬を注射によって硝子体内投与する請求項 1 に記載の医薬組成物。

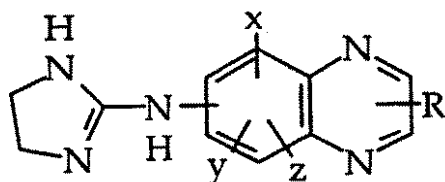
## 【請求項 10】

注入によって硝子体内投与する請求項 1 に記載の医薬組成物。

## 【請求項 11】

<sub>2</sub> アドレナリン受容体作用薬の硝子体内投与により処置される網膜障害を処置するための硝子体内投与用医薬組成物であって、式 I :

## 【化 2】



式 I

[ 式中、2-イミダゾリン-2-イルアミノ基はキノキサリン環骨格の5位又は6位のいずれにあってもよい。x、y及びzは残りの5位、6位、7位又は8位のいずれにあってもよく、水素、ハロゲン、C<sub>1-3</sub>アルキル、C<sub>1-3</sub>アルコキシ、又はトリフルオロメチルから選択する。Rはキノキサリン環骨格の2位又は3位にあってもよい任意の置換基を表わし、水素、C<sub>1-3</sub>アルキル又はC<sub>1-3</sub>アルコキシでありうる。]

で示される化合物および薬学的に許容し得るその塩ならびにそれらの混合物から成る群から選択される <sub>2</sub> アドレナリン受容体作用薬を固体投与形態で処置有効量含有する医薬組成物。

## 【請求項 12】

<sub>2</sub> アドレナリン受容体作用薬がプリモニジンもしくは薬学的に許容し得るその塩またはそれらの混合物である請求項 11 に記載の医薬組成物。

## 【請求項 13】

網膜障害が、糖尿病性網膜症である請求項 11 に記載の医薬組成物。

## 【請求項 14】

固体投与形態の処置有効量のプリモニジンもしくは薬学的に許容し得るその塩またはそれらの混合物を含有する、 <sub>2</sub> アドレナリン受容体作用薬の硝子体内投与により処置される網膜障害を処置するための硝子体内注射用医薬組成物。

## 【請求項 15】

網膜障害が、糖尿病性網膜症である請求項 1 4 に記載の医薬組成物。

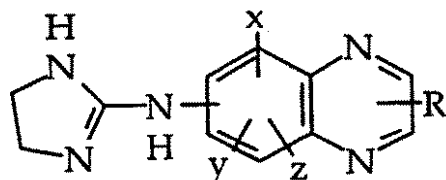
【請求項 1 6】

固体投与形態のプリモニジンもしくは薬学的に許容し得るその塩またはそれらの混合物を含有する、<sub>2</sub> アドレナリン受容体作用薬の硝子体内投与により処置される網膜障害を予防するための硝子体内投与用医薬組成物。

【請求項 1 7】

<sub>2</sub> アドレナリン受容体作用薬の硝子体内投与により処置される網膜または視神経細胞の死滅を引き起こす網膜障害または状態を処置するための硝子体内投与用医薬組成物であって、式 I :

【化 3】



式 I

[ 式中、2-イミダゾリン-2-イルアミノ基はキノキサリン環骨格の5位又は6位のいずれにあってもよい。x、y及びzは残りの5位、6位、7位又は8位のいずれにあってもよく、水素、ハロゲン、C<sub>1-3</sub>アルキル、C<sub>1-3</sub>アルコキシ、又はトリフルオロメチルから選択する。Rはキノキサリン環骨格の2位又は3位にあってもよい任意の置換基を表わし、水素、C<sub>1-3</sub>アルキル又はC<sub>1-3</sub>アルコキシでありうる。]

で示される化合物および薬学的に許容し得るその塩ならびにそれらの混合物から成る群から選択される <sub>2</sub> アドレナリン受容体作用薬を処置有効量含有する医薬組成物。